

環境省「平成 25 年度 びんリユースシステム構築に向けた実証事業」

大阪リユースびんの開発・販売回収・普及事業報告書

平成 25 年

大阪府地球温暖化防止活動推進員 3 R 推進チーム

大阪びんリユース推進協議会

1. 事業の背景

2012年4月に大阪府地球温暖化防止活動推進員3R推進チームが発足。今回の「大阪リユースびんの開発事業」はここからスタートした。このチームの代表であるRびんプロジェクトの西村氏の提案で3つの活動テーマを設定。まず 子供たちに3R教育がいかになされているかを調べる「教科書調査」、自治体が3Rにいかに取り組んでいるかを調べる「自治体調査」、そして 実証事例としての「大阪リユースびん開発」であった。

教科書調査は第1次報告書をまとめRびん大会などで報告。自治体調査は53の市町村にアンケートを配布し、その後、直接訪問して聞き取りによる実態調査とリユースびんの可能性を打診。現在10市町村（能勢町、枚方市、交野市、茨木市、高槻市、柏原市、河内長野市、狭山市、貝塚市、泉大津市）を訪問。今後も訪問を続け、まとめたものを各自治体に還元、最終的には担当者レベルでの交流会の開催を予定。

そんな調査をしていく中、まだまだ3R教育が徹底されていないこと。自治体での環境活動は一定評価できるものの会議、セミナーでは相変わらずペットボトル飲料が出されていることを知ると、3Rの推進とともに「大阪リユースびん」の早期開発の必要性を再認識。

新宿サイダー、大和茶「とわ」、福井県いけソーダーの事例に触発され、特に「とわ」は、隣の奈良県での事例であり、大阪の推進員として“大阪も”という強い思いがあった。

2. 事業の目的と効果

「大阪リユースびん開発事業」は、誰でもない、推進員という府民発想の事業であることで、結果としてCO2削減を目的としながら、大阪府の環境行政に貢献、府民にリユースの概念を広めることもその大きな狙いとなっている。

また、リユースびんの普及活動を推進するために「大阪びんリユース推進協議会」を立ち上げることも今回の目的の一つである。

期待される効果としては、

- 1) 大阪という大きな市場（8,854,483人：平成26年2月1日）に向けた、大阪リユースびんの実証事業への取り組みだけに、普及させることができれば相当量のCO2削減効果が見込める。
- 2) さらにリユースびんを知らない人や世代に対してPRすることで、府民の環境意識の向上に貢献できる。
- 3) 会議やセミナー等での露出で、大阪府市町村などの行政にとっては環境に取り組む姿勢のPRに役立てることができる。

3 . 事業の内容

3 Rの取り組みの旗印となる「大阪リユースびん」の開発とその推進システムの構築。

びんは、新宿サイダー、奈良「とわ」同じ「Rドロップス2」。中味は、大阪府市など行政に使いやすい緑茶に決定。

大阪リユースびん事業としてこだわったのは地産池消。運搬距離での環境負荷の軽減、地域の活性化を狙い、中味も、リユースシステムも基本的に「大阪」をキーワードに構築。

原料提供を、大阪・堺創業、嘉永3年からの歴史を誇る茶葉メーカーに依頼。全国から取り寄せた茶葉をブレンドしてオリジナルな大阪撰茶として、味の面でも十分魅力的な商品として仕上げた。

ネーミングは、「お茶」の飲料であることがすぐわかること、そして大阪に縁のある豊臣秀吉の側室「茶々の方」に由来し「茶々(ちゃちゃ)」とした。ロゴタイプに秀吉の旗印であるひょうたんをデザインしたのも大阪の推進員としてのこだわり。「茶々」の商標は、特許庁の相談窓口であった発明協会に行き、申請できるかを確認してもらい、結果、「申請してみても」というアドバイスの元、商標登録を申請(2014年1月31日申請)。

びんのデザインは、中味がきれいに見えるびんの特性を生かして、ロゴを抑えてすっきりとレイアウト。表面の下には、「この容器は、くり返し使えるリユースびんです」と表記し、リユースびんの啓蒙に役立つように配慮した。

基本的に、行政、公共施設、イベントでの普及を主に、回収可能なホテル、飲食店への展開を広げ、大阪府内への採用の可能性を確認するとともに、実証事業後の可能性を検証していく。

「茶々」の特徴・概要

1. 利休生誕の地、大阪・堺創業の茶葉メーカーが特別にブレンドした茶葉を使用。今までのボトル飲料にはない深い味わい。
2. くり返し使えるリユース対応びん（Rドロップス2）を使用。くり返し使うことでCO2排出量抑制に貢献。中味の味を損なわないびん入りならではのおいしさも特徴。
3. カーボンオフセット付の環境にやさしい商品。
大阪府地球温暖化防止活動推進員の管轄母体である、
一般財団法人大阪府みどり公社のサポートによりクレジットを購入。
「茶々」は、リユースびんというエコ訴求に加え、カーボンオフセット付の環境にやさしい商品としてのPRが可能に。

- 商品名：大阪撰茶「茶々」ちゃちゃ
- びん：Rドロップス2 内容量：220ml びん自重 245g リターナブル設計
- 中味：緑茶
- 原材料名：緑茶（名産地の茶葉をブレンド）・ビタミンC
- 賞味期限：9か月
- 保存方法：直射日光を避け、常温保存
- 企画：大阪府地球温暖化防止活動推進員3R推進チーム・大阪びんリユース推進協議会
- 製造：能勢酒造株式会社（大阪府豊能郡能勢町）
- 販売：大阪硝子壺問屋協同組合（大阪府高槻市）
- 原料提供：つば市製茶本舗株式会社（大阪府高石市）
- びん容器：東洋ガラス株式会社（東京都品川区）
- 価格：オープン価格（卸目安@120円）
販売先、状況に合わせてびんとP箱にデポジットをつける。



「茶々」のPR物

告知パンフレット (A4 / 2P)



告知ポスター (B4・縦 1/2)



ニュースリリース

大阪びんリユース推進協議会

ニュース リリース

大阪撰茶「茶々(ちゃちゃ)」、リユースびんで誕生。

大阪びんリユース推進協議会(大阪市中央区)では、2014年3月より、大阪撰茶「茶々」を、くり返し使えるリユースびん入りで発売する。

特徴

1. くり返し使えるリユースびんを採用。

ペットボトル、ワンウェイびんと違い、くり返し使えるリユースびんは、CO₂削減、ごみ減量、資源の節約など環境負荷が少ない容器として注目されています。さらに容器としてのびんは中味の味を損なわないという特性もあります。

「茶々」は、Rドロップス2というリユース専用のびんで、220ml入り、王冠タイプ。

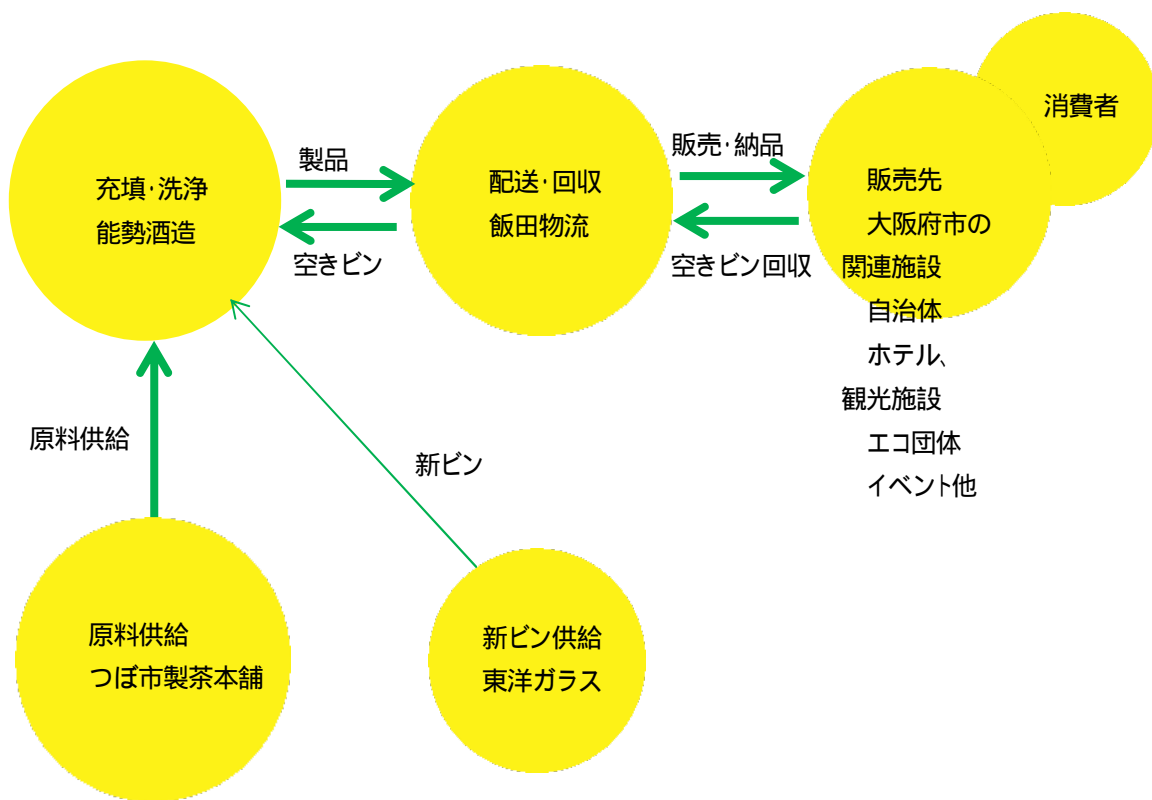
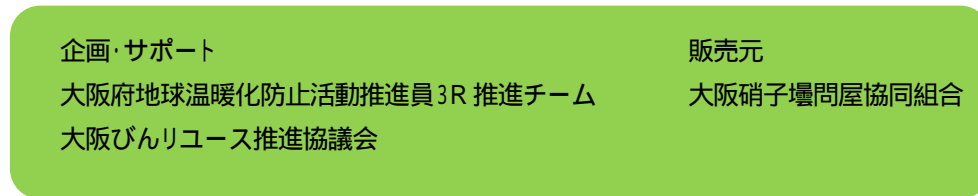
2. 名産地から選んだ茶葉をブレンド。

中味は、日本各地の産地から選んでブレンドした茶葉を能勢の天然水で抽出しました。この深み、風味こそまさにお茶本来の味わい。一口ひとくち、ゆっくと、今までのボトル飲料とは違うおいしさを楽しんでいただけます。

3. カーボンオフセット付の環境にやさしい商品です。

実施体制の構築

早くから、後の「大阪びんリユース推進協議会」メンバーになる、Rびんプロジェクトやごみゼロネットなどの協力を得、「大阪リユースびん」事業の実施体制はスムーズに構築された。



企画：大阪府地球温暖化防止活動推進員3R推進チーム・大阪びんリユース推進協議会

大阪市中央区谷町1丁目3-17-708 福井方 06-6949-5132

販売元：大阪硝子壺問屋協同組合 大阪府高槻市奈佐原2-1-10 三輪商店内 072-696-2901

原料供給：株式会社つぼ市製茶本舗 大阪府高石市高師浜1-14-18 072-261-7181

充填・洗浄：能勢酒造株式会社 大阪府豊能郡能勢町吉野358 072-735-2222

配送・回収：飯田物流株式会社 大阪府八尾市安中町1-1-29 072-923-6002

4 . 事業の成果

1) 大阪リユースびん「茶々」の完成

2月20日、能勢酒造で記念すべきボトリングがスタート。午前中に3,820本の製品が出来上がる。その一週間ほど前の2月13日、能勢酒造で肝心な味を決めるために数種類のレシピに基づいて抽出された試作の検討会を行う。商品としての味が気になるところだが、ボトリング直後は熱い状態であり、完成品での試飲は後日となる。

商品が出来上がり試飲をして、「これなら」とならないと営業活動も行えず、実際に動き出したのは翌週の24日からである。

最終商品での撮影をし、パンフレットを印刷するのは3月になってからであった。



2月13日 能勢酒造で試飲会



2月20日、洗浄、ボトリングがスタート。できたての茶々がP箱に続々と入れられて完成。

3月 3/5 大阪食品衛生協会に菌検査依頼。3/7 陰性検査結果を受ける。

2)「大阪びんリユース推進協議会」を設立し、「茶々」の推進体制を構築。

2012年から準備をしてきてベースはあったものの、2013年12月に助成金事業となって、わずか2か月足らずで「茶々」を完成させることができたのは、Rびんプロジェクトやごみゼロネット大阪などの環境団体の情報ネットワークがあったからこそ。この推進力をリユースシステムとして生かすために協議会の設立を各団体に呼びかける。

そして、2014年2月19日。大阪府一円の市民・事業者・行政のパートナーシップにより、現在あるびんリユースの基盤を維持しつつ、新たなびんリユースシステムの構築を推進し、もって循環型社会の形成と健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする「大阪びんリユース推進協議会」を設立。

設立当初（2014年2月28日現在）のメンバーは、大阪府地球温暖化防止活動推進員3R推進チーム・Rびんプロジェクト・特定非営利活動法人ごみゼロネット大阪・特定非営利活動法人大阪府民環境会議・かしわら環境会議・飯田物流株式会社・大阪硝子壺問屋協同組合である。

まずは、「茶々」による新たなびんリユースシステムの構築を協議会のネットワークにより積極的に推進。同時に全国および他の地域の同一趣旨の組織との連携を進めていく。

- 名称：大阪びんリユース推進協議会
- 構成団体：大阪府地球温暖化防止活動推進員3R推進チーム・Rびんプロジェクト・特定非営利活動法人ごみゼロネット大阪・特定非営利活動法人大阪府民環境会議・かしわら環境会議・飯田物流株式会社・大阪硝子壺問屋協同組合（2014年2月28日現在）
- 所在地：大阪府中央区谷町1丁目3-17-708 福井方 06-6949-5132
- 代表：福井善明（大阪府地球温暖化防止活動推進員3R推進チーム開発担当）
- 運営委員：西村優子（Rびんプロジェクト代表）
吉川康彦（大阪硝子壺問屋協同組合監事）
柴田吉子（特定非営利活動法人ごみゼロネット大阪理事）
- 監査：松井一郎（Rびんプロジェクト事務局長）



大阪びんリユース推進協議会設立準備総会

3) イベント、自治体への普及活動スタート。

完成とほぼ同時に、協議会メンバーやその紹介者からの問い合わせや取扱いへの打診が集中。これからどこに発信していこうと思っていた当初の課題がすんなりとクリア。さらに自治体、ホテル・旅館への普及をと思っていたことが、イベントという新しい普及先を開拓していただいたのもこの各団体であり、あらためて他にない大阪の環境団体の凄さを実感。

こまめに説明、サンプル出荷、試飲を重ねながら、とりあえずイベント出展を続け、合わせて訪問した自治体担当者を攻略の窓口として、最終的には行政への定量採用をめざしていく。

<活動報告>

2月17日、茨木市訪問。

産業環境部環境政策課の担当者2人と会う。リユースびんに対する関心は高いものの、価格が高いこと、飲料の納入業者との契約があることで今すぐは難しい。ただ年度が変わり、来年度の予算申請ができれば可能性もあるとのこと。早期対応が必要。

2月21日、堺市訪問。

環境局、環境都市推進室の担当者3人と会う。事前にリユースびんを紹介したいということ訪問したが、主幹や参事が同席してくれ関心は高い。導入の可能性として売店で扱えないか調べてみるということであった。(後日連絡があり価格が問題だということ。リユースびんのPRの必要性を実感)。その後、観光推進課の方からは、市内のホテル・旅館に展開してはというアドバイスと、後々の紹介を示唆。これからも担当者との定期的に連絡が求められる。



2月28日の「大阪府地球温暖化防止活動推進員の交流会（大阪府咲州庁舎）」で試飲PR。



「茶々」完成後初めてのお披露目。開発の経緯の報告の後、約30人の推進員に試飲してもらった。お茶の風味があって“おいしい”と味への評価も高く、びん入り飲料への推進に弾みがついた。報告中のテーブルに、ペットボトルではなく「茶々」が置かれたシーンには感動した。

3月1日の「京都・環境教育ミーティング」で40本を試飲、販売回収。



京エコロジーセンターによる「第10回 京都・環境教育ミーティング」に参加。ミニグラスでの試飲をしながら、購入も受付。テーマが環境であり、来場者の関心も高く、「大阪もできたんやね」「びん入りはやっぱりいい」「どこまで配達してくれますか」「イベントに参加してもらえますか」「どこで買えますか」など、こちらが驚くほどの反応があった。試飲が中心に考えていたが、カンパというかたちで120円をもらうことに。中には150円をカンパ箱に入れていただくなど、とても感謝の一日であった。結局40本を販売回収。

3月4日 カーボンオフセットEXPO（東京国際フォーラム）で試飲。出展するみどり公社に100本販売回収。



北川環境副大臣が環境省と公社ブースを訪問。近畿での取組みを説明、「茶々」の試飲を行った。評判は上々。

3月11日 京都大学で行われた3R国際会議で40本販売回収。



会議参加者、傍聴者、一般市民の方々の昼食スペースともなっているPRルームで出展者のひとりとして参加。各国の人々に試飲してもらいながら、団体でこられた方々には、パンフレットで詳しく説明。「お茶の味がしっかりする」とお茶にうるさい京都の人にもほめていただいた。3Rの会議でもあり、外国の人ものユースびんへ関心は高かった。イベントでのPRの必要性を再認識。

3月12～14日 河内かしわら「わたの日」に40本販売回収。



もともと環境への関心が高い柏原市で開かれた「わたの日」イベントに出展。「大阪発信でこんなリユースびんを待っていた」「自分たちのものとしてリユースを啓蒙していける」などの声をいただいた。これからは、この会場が「茶々」の流通拠点の一つとなり、柏原市を中心に販売回収予定。

< その他の予定 >

3月22日 円卓交流会 40本販売回収予定。

3月24日 柏原「かしわら環境会議」20本販売回収予定。

4月20日 京エコロジーセンター「きょうのごはんに大感謝祭！」50本販売回収予定。

4月25～27日 ロハスフェスタ販売回収予定。

6月1日 柏原「環境フェア」200本販売回収予定。

「かしわら環境フェア」100本販売回収予定。

NPO 東大阪市民環境会議 26年度総会 40本販売回収予定。

6月7日 大阪府市ガレージセール販売回収予定。

販売実績と回収率

市町村、イベント、店舗への試飲、または協議会メンバーへの販売回収委託などでの出荷を含め、3月20日現在で、製造3,820本中、約1,500本が出荷されている。

[イベント販売について]

京都・環境教育ミーティング

試飲 8本 販売 32本 回収 40本 回収率 100%

カーボンオフセットE X P O

販売 100本 回収 100本 回収率 100%

京都大学3R国際会議

販売 40本 回収 40本 回収率 100%

河内かしわら「わたの日」

販売 40本 回収 40本 回収率 100%

[試飲について]

大阪府地球温暖化防止活動推進員の交流会

提供 12本 回収 12本 回収率 100%

Rびんプロジェクト定例会

提供 11本 回収 11本 回収率 100%

[販売について]

吉川商店

販売 200本 回収 0本 回収率 100%

新日本流通

販売 200本 回収 0本 回収率 0%

京都環境市民会議

販売 20本 回収 0本 回収率 0%

京都ごみ減量会議

販売 40本 回収 0本 回収率 0%

大阪ごみ減量推進会議

販売 18 本 回収 18 本 回収率 100%

大阪府民環境会議

販売 20 本 回収 20 本 回収率 100%

大阪教育大学

販売 100 本 回収 0 本 回収率 0%

自治労東大阪市労働組合

販売 20 本 回収 0 本 回収率 0%

追手門大学梅田サテライト

販売 20 本 回収 0 本 回収率 0%

柏原市真野酒店

販売 100 本 回収 0 本 回収率 0%

大阪市桃籠園（中華店）

販売 100 本 回収 0 本 回収率 0%

柏原市円卓会議

販売 40 本 回収 40 本 回収率 100%

柏原市かしわら環境会議

販売 20 本 回収 20 本 回収率 100%

その他、堺市、八尾市、京都大学、追手門大学などにサンプルとして数本提供（未回収）。

飲料という商品の性格上、試飲が欠かせず、導入初期にはサンプル出荷が必要となる。わざわざ回収のために出向く効率の悪さから、現状は回収待ちの状態にあり、これが回収率の低さとなっている。また、サンプルがそのまま開封されていないケースもあり、いまだ空き瓶となっていない場合もあるようだ。

しばらくは普及を優先するも、びんの足跡をきちんと把握しておくことで、会議のついでにとか、打ち合わせのついでにとか、配送回収のついでにとか、返却の機会を増やし、回収に新たな労力を伴わない方法での回収をはじめている。

5. 事業の成果（まとめ）

- 1) “3Rの取り組みの旗印となる「大阪リユースびん」の開発とその推進システムの構築”として取り組み、関係団体との協力により早期に「茶々」を完成（2月20日）させることができた。
- 2) リユース推進体制を確立するために欠かせない「大阪びんリユース推進協議会」も、関係者のネットワークをフルに生かし、「茶々」の完成とほぼ同時に設立（2月19日）することができた。
- 3) 積極的な“環境団体の存在”と“イベントへの展開”という新たな普及啓蒙先を開拓した大阪ならではの取り組みで、わずか1か月で約1,500本出荷できた。

これからは、「こんな商品を待っていた」「3R推進活動がしやすくなる」「びん入りはやっぱりおいしい」などイベントでの声、「採用に向けて検討してみる」という自治体調査を生かし、大阪府市町村民、行政に向けて本格的にアプローチを開始。早期に、大阪でのびんリユースシステムを完成させ、求められる循環型社会づくりに貢献していく。

6. 今後の検討課題（残された課題）

本実証事業で開発した「茶々」は、実施体制に基づいて販売・回収していく予定であるが、リユースシステム構築に当たっては、販売方法別に課題が想定される。

1) イベント販売・回収

対面式であり、ほぼ100%の回収が期待される。規模や内容によりデポジット制を導入し回収率をあげる。ただし、スポット的な販売であり、流通量の拡大に向けては検討が必要。

2) 拠点を固定した販売・回収

一定量の販売が期待されるホテルや行政であれば、配送ついでに回収が成立。この場合もほぼ100%の回収が見込める。

3) 直接販売・回収

他府県への販売、個人への少量販売は基本的には断るが、回収まで考えたオーダーであれば対応していく。

販路・回収方法について、一部、詳細については導入過渡期であり調整中事項もあるが“リユースびん”という点を相互理解したうえで取り組む必要がある。

一定以上の流通量を確保し、大阪府内を中心にびんリユースシステムを構築していくためには、関係団体との連携が継続して必要であり、本実証事業で構築した「大阪びんリユース推進協議会」を中心に引き続き活動していく。

7. 事業終了後の展開

まず3,820本のリユースのめどを早急につけること。そして本実証事業で構築されたびんリユースシステムを生かし、事業拡大を目指すべくあらゆる課題を検証。

より多くの大阪府民への告知するために、イベントへの参加、行政への採用を目指して自治体訪問を継続。本数や販路が増えても対応できるびんリユースシステムの見直しを続け、事業拡大を狙う。今後は緑茶飲料以外のリユースびんの開発も視野に、「大阪びんリユース推進協議会」のメンバーを増やす、他の協議会、NPO団体との連携強化していく。

本実証事業のおかげで生まれた「茶々」を、大阪の地球温暖化防止活動の象徴として今後も3R推進活動を展開していく。

8. お願い

リユースびん事業は、今後も継続されるべきもの。しかし、なかなか事業として自立することが難しいのが現状です。

今後も様々な局面でのご支援をよろしくお願いいたします。

環境省「平成 25 年度 びんリユースシステム構築に向けた実証事業」
大阪リユースびんの開発・販売回収・普及事業報告書

平成 25 年 2 月

作成 大阪府地球温暖化防止活動推進 3 R 推進チーム・
大阪びんリユース推進協議会

〒540-0012 大阪府中央区谷町 1 丁目 3-17-708 福井方